

## 2022年度業務実績報告書

提出日 2023年 1月 19日

1. 職名・氏名 准教授・徳野 淳子

2. 学位 学位 博士, 専門分野 情報科学, 授与機関 北陸先端科学技術大学院大学, 授与年 2005年3月

## 3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 情報基礎演習（1単位） 1年次 3クラス担当
② 内容・ねらい（自由記述） パソコンの基本操作と管理，タイピング，ワープロやプレゼンテーション資料の作成，情報倫理とデータ倫理，情報セキュリティ，クラウドサービスの利活用方法などを学習する。大学での学習や卒業後の社会生活に必要なICTリテラシーとデータリテラシー（データを読み解き，適切に活用する能力）の基礎を習得させることがねらいである。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） コロナ禍で一時的に登学できなくなる学生や基礎疾患のある学生，その他，離れたキャンパスで学ぶ学生も受講できるように，対面授業をZoomでリアルタイム配信するハイフレックス型で実施した。また，学生の事前知識や能力によって作業状況に差が出やすい単元はオンデマンド型で実施し，対面やZoomで質問を受けるようにした。 一部の単元を除き，受講に際し情報演習室のパソコンか，自分のパソコンを使用するかは学生の自由とした。また，昨年度に続き，自分のパソコンにOfficeがインストールされていない学生には，Googleドキュメントやスライドを用いて同等の課題に取り組めるように工夫した。 この演習は複数教員で担当しているが，クラスによって学習内容に差異が生じないように，担当教員間での調整や，教材更新に係る作業の取り纏めを行った。近年のデータサイエンスの需要を踏まえ，新たにデータリテラシーに関する単元を設けた。 また，新入生の大学入学時の情報に関する知識とスキルのレベルを把握し，今後の情報教育の改善に利用する目的で，IPT(Information Placement Test)を実施した。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 導入ゼミ（1単位） 1年次
② 内容・ねらい（自由記述） 「インターネット社会」という枠組みの中で，各自が興味のあるテーマを設定して考察する。その過程で，大学生に必要な文献調査やレポート作成，効果的なプレゼンテーションの方法を習得させることがねらいである。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 履修登録や時間割の作成等，新入生が入学時に抱える問題の自己解決につながるように，「一般教育の履修に関するQ&Aサイト」を作成し，前期オリエンテーションや他のゼミでも利用できるように公開した。また，導入ゼミは複数の教員が担当しているが，文献調査やレポートの作成技法等，どのゼミにも共通する教材を共有し，学生が上級生になってもその情報を参照できるように，学術教養センター教員と協力して，「学生向けの補助教材サイト」を作成した。 また，個別指導が必要な課題に関しては，GoogleClassroomを介してコメントをフィードバックした。
【ゲストスピーカー 1人】※人権特別講義

<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 教養ゼミ (1 単位) 1 年次</p>
<p>② 内容・ねらい (自由記述) テレビニュースや新聞, CM やソーシャルメディアなど, 身近なメディアを論理的で偏りのない視点で見る. メディア分析やグループワークを通じて, 各種メディアの特性を理解し, 情報を読み解くための能力を身につける.</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 学生が興味を持って取り組み, この授業で学んだ知識を日々の生活に応用できるように, 最近の身近な話題を取り入れた. また, 学生が自ら考える時間や, グループワーク等他のメンバーの意見を確認する時間をより多くとった. 単元毎にトレーニングシートに自分の考えを書いて提出してもらい, 次回の授業でその振り返りを行うことで, 学生の理解が深まるようにした.</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 情報科学 I (1 単位) 1 年次</p>
<p>② 内容・ねらい (自由記述) 以下の項目について学習し, 情報社会を生きる上で必要な知識と思考を習得させることがねらいである.</p> <p>(1) 情報社会で起きている変化 (2) 情報倫理, 情報を扱ううえでの留意事項, 情報セキュリティ (3) 情報をクリティカルに読み解く能力 (メディアリテラシー) (4) コンピュータのハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの仕組みと機能 (5) 社会におけるデータ・AI の利活用, 留意事項</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) データサイエンスや AI 教育を強化する為, この授業を担当する他の教員とともに授業内容を見直し, 教科書を改訂した. 第 8 回にゲストスピーカーによる講義を行った. (講義の様子は, 大学のホームページで報告済) 今年度は小浜キャンパスやあわらキャンパスなどから受講を希望する学生もおり, 受講生も教室定員を超えていたため, 対面授業を Zoom で配信するハイフレックス型で実施した. 個々の学生の理解度を把握するために, 毎回の学習内容に関するお題を出題し, Google フォームを用いて回収した. また, 質問や理解不足な点が見られた場合は, 次回の授業で解説を行うようにした. FPU-LMS や GoogleClassroom には, 講義スライドを掲載し, 授業外学習を支援した. また, 単元ごとに復習テスト (オンラインテスト) を実施し, その都度理解度を確認した.</p> <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー: 1 人】</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 情報処理基礎演習 (1 単位) 1~4 年次 ※ 主として, 生物資源学部の 2 年生を対象に実施. 第 1~12 回を担当</p>
<p>② 内容・ねらい (自由記述) 専門教育に応用できるデータリテラシーを習得させることがねらいである. 主に, Excel の基本操作, 表計算, グラフ表現, 関数の利用, 基本統計量の計算と理解, データベースの操作, 集計処理について学習する. 生物資源学科の学生に必要な実験データ処理技術を習得させるため, 第 13~16 回の後半は, 生物資源学科の先生方に御担当いただいている.</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 同授業を担当する教員らで作成した教科書を用いて授業を行っている. 今年度からは新たに, 数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアムで開発されたリテラシーレベルモデルカリキュラム教材も参考にした. この演習は, 例年学生の事前知識や能力によって作業進捗に差が見られること, また, 自分のパソコンを使って学習したいという学生の希望があったことから, 事前にオンデマンド教材を作成し, それを基本として, 対面または Zoom で質問を受ける形で実施した. 現実の問題処理にあたり, どのスキルを使うかを素早く判断し, 一定時間内で問題処理でき</p>

る能力を養成するために、定期的に課題や試験を実施した。授業の内容や実施方法については、教員間で適宜確認を取るようにした。過去の授業評価アンケートのコメントを受け、FPU-LMS を介して、テストの採点結果や減点箇所を学生にフィードバックしている。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等  
メディア情報処理概論 (2 単位) 1~3 年次

② 内容・ねらい (自由記述)

私たちがコミュニケーションで用いる言語や文字、画像をコンピュータで表現、処理するためのメディア情報処理技術について学習する。AI (人工知能) 技術としても用いられている自然言語処理やパターン認識、機械学習の基礎を理解し、その応用技術やツールなど身近な技術への関心を高めてもらうことがねらいである。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

概論ということで様々なメディアを対象とした情報処理技術について広く浅く扱うことを考慮して、本講義では特定の教科書は使用せず、資料を作成し、適宜、参考書を紹介した。昨年に続き、対面授業を Zoom で配信するハイフレックス型で実施した。学生が終始講義に集中できるように、穴埋め式の配布資料や、各箇所で学生に問いかけながら授業を進めた。問いに対する学生の回答は、FPU-LMS を用いてその場で確認した。また、単元毎に授業内外で課題レポートを出題し、その都度理解度を確認した。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等  
現代人権論 (2 単位) 1~3 年次 (全 15 回のうち 1 回を担当)

② 内容・ねらい (自由記述)

本講義は、複数の教員が担当するオムニバス形式であり、現代社会における種々の人権問題を多様な視点から学習する。このうち担当した回では「インターネットと人権」というテーマで講義した。その中で、誤った情報の解釈が招く問題を取り上げ、メディアリテラシーの必要性について説明した。また、誹謗中傷、個人情報への漏洩、プライバシー権や肖像権等の侵害など、最近の事例を取り上げながら、他人の権利を侵害しないための情報倫理と被害に遭わない為の対策について解説した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

必修の情報科学 I で学習する内容と関連付けて講義した。また、最近の事例の紹介や、適宜、問いかけを交えながら、学生が講義に集中できるよう工夫した。

(2)その他の教育活動

① 担当科目名 (単位数) 福井大学で非常勤講師を担当  
地域コア I 「メディアリテラシー」 (2 単位)

② 内容・ねらい (自由記述)

メディアリテラシーの基本的な考えやメディアとしてのインターネットの特性を学習し、情報を主体的に吟味し、批判的に読み解くための能力を身につける。また、大学生に身近な事例や医療現場で起きているソーシャルメディアを取り巻く問題などを取り上げながら、情報の取り扱いとインターネットで情報を発信する際のルールとマナーを身に付ける。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

広告や CM、ニュース番組や新聞、電子メールやソーシャルメディア、フェイクニュースなど、身近なメディアやそれを取り巻く問題を取り上げながら、学生が興味を持てるよう工夫した。今年度は、昨年度に続き新型コロナ感染拡大防止のため、オンデマンド型で実施した。

④ 本学における業務との関連性 (自由記述)

本学で担当している「情報科学 I」をはじめとする情報教育にも強く関連する科目であり、本講義を行うことで、他の授業の改善にもつながっている。また、2018 年度から、本学で本講義に関連した教養ゼミを開講している。

#### 4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	
1. 河村 一樹, 稲垣 知宏, 高橋 尚子, 中鉢 直宏, 徳野 淳子, 立田 ルミ, 李 凱, 堀江 郁美, 山際 基, 小泉 カー, 庄 ゆかり, “大学における一般情報教育”, 近代科学社, 2022年3月	
2. 福井県立大学学術教養センター(編), “福井県大のリベラルアーツ”, 福井県立大学出版部, 2022年3月.	
3. 徳野 淳子, 山川 修, 田中 武之共著, “情報リテラシー第4版”, 森北出版, 2022年10月	【 3本】
②学術論文(査読あり)	
	【 0本】
③その他論文(査読なし)	
	【 0本】
④学会発表等	
	【 0件】
⑤その他の公表実績	
	【0本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
情報処理学会「一般情報教育委員会」委員(2017年4月～現在)	

## 5. 地域・社会貢献活動

- 福井市DX推進会議委員（2022年10月7日～2027年3月31日）

## 6. 大学運営への参画

### (1)補職

### (2)委員会・チーム活動

- 情報センター（仮称）設立検討委員会委員
- デジタル推進委員会委員
- 情報機器更新ワーキングチームメンバー
- 教学IR-WG 部会委員
- 学術教養センター内カリキュラム委員

### (3)学内行事への参加

### (4)その他，自発的活動など

- FPU-LMS, SNS 等情報システムの管理・運営，業者とのやり取り等を担当
- 遠隔授業実施に伴うマニュアルの更新
- オリエンテーション履修ガイダンス（情報，2022年度は動画・資料を作成），履修指導，一般教育履修ガイダンス FAQ ページの作成
- 遠隔授業システムの利用に関する教員・学生のサポート，質問対応
- 情報演習室の利用者支援，授業利用での時間割調整
- 数理・情報・物理系科目の非常勤講師窓口，時間割調整を担当
- 2023年度アクティブラーニング室新設に向けた準備業務（事務局と連携して実施）